

【2025年度 学生交流委員会 事業計画】

○目的 年間を通し各委員会校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。

○委員校 委員長校：神戸常盤大学、副委員長校：神戸学院大学
（全：25校） 委 員 校：芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、園田学園大学、姫路大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進 他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果 1. 学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。 2. 参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。 上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。	1. テーマ型の学生交流プロジェクトの実施			
	1. テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル	各年参加者数50名以上	参加加盟校数10校/年	1,050
	2. 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施			
	2-1. 学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」	情報公開数200取組以上	各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数40取組以上/年	200
	2-2. 学生発信ブランディング若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」SNS等での情報発信	参加加盟校数10校以上/年	個人参加15名以上	5,769 (受託事業収入)

【2025年度 学生交流委員会 事業計画（③取組1）】テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）				報告（3月記載）			
【「シン キッズフェス[仮称]」の開催】 開催日：9月、又は10月のINAC神戸ホームゲーム開催日。 時間：未定（キックオフの2～3時間前から試合終了または終了1時間後まで） 場所：ノエビアスタジアム神戸（多目的芝生広場含む） 対象：未就学児童等とその家族、試合観戦者 【目的】 ・地域社会との交流： 学生が地域の子供や家族と交流する機会を提供し、地域社会との結びつきを強化する。 ・健康促進： スポーツや文化活動を通じて子供たちの健康と体力を向上させる。 ・コミュニティの一体感を醸成： 試合とフェスを通じて、地域社会全体が一体となって楽しむ場を提供（体験）する。 ・実践的な経験： キッズフェスティバルの企画・運営を通じて、実際の試合運営に関するスキルを身につけ、学生が将来のキャリアに役立つ経験をしリーダーシップ力を養う。 【内容】 当プログラムでは、INAC神戸レオネッサのホームゲーム自体を「キッズフェスティバル」のプログラムの1つとして位置付け、学生達が企画・運営に主体的に関わる取組とする。コンソは加盟校からイベントブースに出展する学生団体等とプログラム全体を企画運営する学生を広く募集する。プログラム全体の企画運営学生に関しては、「キッズフェスティバルを成功させるためにはどうしたら良いか?」といった観点から、複数の班に分かれて活動を実施する。これらの活動の取り纏めは、INAC神戸のスタッフに依頼する。 [活動班例(案)] ・イベント全体の調整班 ・企画班 ・INAC神戸レオネッサのホームゲーム運営サポート班 ・広報・SNS班 ・その他 【その他】 ・実施コストに関して INAC神戸レオネッサは、当プログラムにおいて、施設使用料等を原則徴収しない。コンソ事業予算内で実施する。										
達成目標に対する実績										
活動指標に対する実績										
自己評価基準：対到達目標※							—			
自己評価基準：対継続性※							—			
事業収支	収入	1,050,000円	支出		収支		支出		収支	
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）										
※自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った					※自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき			

【2025年度 学生交流委員会 事業計画（③取組2-1）】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）				報告（3月記載）			
【地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介】 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。 〈内容〉 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。										
達成目標に対する実績										
活動指標に対する実績										
自己評価基準：対到達目標※							—			
自己評価基準：対継続性※							—			
事業収支	収入	200,000円	支出		収支		支出		収支	
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）										
※自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った					※自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき			

【2025年度 学生交流委員会 事業計画（③取組2-2）】学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 SNS等での情報発信

計画（4月記載）			自己評価（12月記載）				報告（3月記載）			
【兵庫県危機管理部防災支援課受託事業 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」】 【受託期間】 2025年4月1日～2025年10月31日（2024年度からの継続） 【目的】 阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、次世代に震災の経験と教訓を繋いでいくことを目的としている。若者が参画するプロジェクトチームの活動を通じて、記事コンテンツの作成および啓発動画を活用した広報を行う。 【内容】 震災を知らない若者が、震災から学び、教訓として次世代に何を伝えていくかをテーマに、調査や取材による動画作成とSNS等での発信を通して、若者の視点で防災・減災啓発における情報を、地域社会に伝えていく。コンソは加盟校から参画学生を広く募集し、チームの立ち上げ、活動を支援する。学生の教育的観点においては、震災について主体的かつ深く学ぶことを通じて、創作意欲や協調性の養成を目指す。また、地域の防災意識の向上や地域活性化に繋がる取り組みを通じて、広報（ブランディング）活動の一環としての経験も提供する。 (1) 震災の教訓を繋ぐプロジェクトチームの運営 (2) ワークショップの企画・運営 参加学生の意識を合わせるとともに、広報活動の企画・検討するためのワークショップ開催 (3) ウェブサイト、SNS等での情報発信 参加学生が作成する記事コンテンツを発注者が運営・管理するウェブサイトおよびSNSで発信 (4) 防災・減災啓発動画の効果的な発信 学生たちが制作した、防災・減災啓発動画を広く国内外へ発信するための機会を設け、効果的な広報発信 【具体的な活動内容】 ○防災啓発動画の発信（防災動画チーム） (1)兵庫県 ひょうごチャンネル（YouTube）にて発信 ・震災30年特設ホームページ ・創造的復興サミット会場（2025年9月開催予定） ・大阪・関西万博会場 (2)大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページにて発信 学生交流事業 【地域で輝く学生vol.1. 防災動画】 (3)第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムにて発信（2025年8月30日・31日） ・パネル展示：「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」をコンセプトに加盟校より「震災30年、阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動」や「大学間連携」「産官学連携」を展示。その一環として、本取組も紹介 ・分科会：【TKK3大学連携事業15周年企画】阪神・淡路大震災から30年「若者と考える 被災地支援と語り継ぎのチカラ」にて上映 ○防災・減災啓発のコンテンツ企画制作、SNS等での発信（SNSチーム） ・キックオフ2025年2月27日、2025年2月～10月に月1回の編集会議 ・随時SNS発信と2025年10月にタブロイド発行予定										
達成目標に対する実績										
活動指標に対する実績										
自己評価基準：対到達目標※							—			
自己評価基準：対継続性※							—			
事業収支	収入	1,339,000円	支出		収支		支出		収支	
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）										
※自己評価基準：対到達目標			4：当初計画を上回って達成 2：当初計画をやや下回った			3：当初計画を達成 1：当初計画を下回った			※自己評価基準：対継続性	
									4：本プログラムは継続すべき 2：本プログラムの継続には改善が必要	
									3：本プログラムは継続しても良い 1：本プログラムは中止すべき	

【2025年度 学生交流委員会 事業予算】

(単位：円)

予算			各取組 予算			委員会 予算
			取組1	取組2-1	取組2-2	
			WILL BE プロジェクト	学生発信ブランディング		
			テーマ型の学生交流 プロジェクト	加盟校・学生の 地域活性化に関わる 取組広報	「兵庫県」若者による「震 災の教訓を繋ぐプロジェクト」 SNS等での情報発信	
			予算額	予算額	予算額	
収入	会費収入	1,350,000	1,050,000	200,000		100,000
	助成事業収入	0				
	受託事業収入	5,769,100			5,769,100	
	プログラム収入	0				
	雑収入	0				
	戻入金	0				
	計	7,119,100	1,050,000	200,000	5,769,100	100,000
支出	会議費	40,000	30,000			10,000
	旅費交通費	1,060,000	50,000	20,000	980,000	10,000
	通信運搬費	266,600	20,000	120,000	96,600	30,000
	消耗品費	311,500	30,000		272,500	9,000
	新聞図書費					
	印刷製本費	50,000	50,000			
	光熱水料費					
	賃借料	440,000	250,000		180,000	10,000
	保険料					
	謝金					
	租税公課					
	支払手数料	21,000	20,000			1,000
	諸会費	50,000			50,000	
	委託費	270,000		60,000	180,000	30,000
	人件費	4,010,000			4,010,000	
	接待交際費					
	支払支援金	600,000	600,000			
	雑費					
	計	7,119,100	1,050,000	200,000	5,769,100	100,000

収入－支出	0
-------	---